

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 25-1-154
補助事業名 平成25年度 地域ふれあい交流活動補助事業
補助事業者名 仙台市立南吉成中学校

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

本事業は二つの教育実践からなる。

一つ目は「中学生が主導する地域防災訓練」であり、将来的に地域防災を担う人材を育成することを目的に行う防災教育の実践である。この実践では、中学生の防災意識を高め、防災に関するスキルを学び、防災対応能力の向上を目指すものである。さらに、この訓練では地域組織等と連携を図り、学校が地域を巻き込む活動として展開し、防災を通じて安全で安心な地域づくりにも貢献できることを目指している。

二つ目は「津波被災農家に弟子入り体験」であり、中学生が津波被災農家で農業の奉仕活動を行う。この体験活動を通じて、被災農家が甚大な被害と苦難から立ち直り、農業再生や復旧・復興に向けて尽力する姿を見取り、その活動を共にすることで生き抜く力の糧を学び取ることを目的としている。その際、農業再生・復興の道のりから、どんなに辛く悲しい現実にも背を向けることなく、前に進もうとする意欲と希望を持つことの大切さを、生徒の心に刻み込み、諦めない強い心情を培うことを目指している。

(2) 実施内容

仙台市立南吉成中学校 (URL <http://www2.sendai-c.ed.jp/~chikufu/>)

①「中学生が主導する地域防災訓練」

本訓練では、3年生が以下の6つの班に分かれて訓練活動を担当し、1・2年生と保護者、地域住民が避難者役として参加し、地域防災訓練を開催している。

A、避難所設営・運営班・・・避難所を設営して避難者に対応。受付で避難者の名前等を記録



B、炊き出し調理班・・・非常災害用炊飯袋でご飯を炊き、本校特製カレー丼550食分を調理・提供。 P T A 役員が温かい豚汁を調理・提供



C、集団避難・誘導班・・・4ヶ所に設けた一時避難所に集合し、生徒が誘導して本校まで集団避難



D、救急・救護班・・・生徒が避難者に聞き取りによる健康調査や血圧測定など実施



E、災害状況・情報収集班・・・生徒が支援組織の方と一緒に地域を巡回して危険箇所等を調べ、さらには各戸を訪れ、本校で午後開催するシンポジウムのチラシを配布



- F**、災害対策本部・生徒会役員がトランシーバを携帯して各班の進行状況を把握し、本部に情報を集約。この情報をもとに、計画通りに訓練を進行・実施していたが、炊き出し調理が20分程度の遅れが生じることが分かった。このため、本部と協議して生徒会役員は、10:30から開始した1テーマ15分ずつのポスターセッションを11:30から11:45の1テーマ分を追加することを決め、遅れの時間を調整している。生徒会役員は突然の事態に的確な対応を取り、本部につめて相談・報告を受けた町内会長は臨機応変に適切で迅速な決定に感心していた。



②「津波被災農家に弟子入り体験」

この体験では、津波被災農家の方々から講演をいただき、その後の7月と11月に体験活動を行っている。

7月15日 被災農家7人の講演「地震・津波の体験と農業再生・復興への道のり」

講師：(株) 仙台荒浜アグリパートナーズの7人（前・綿花組合）

講演参加者数：1・2年生 212人、保護者 132人、教員 15人計 359人



7月26日 津波被災農家に弟子入り体験①（仙台市東部沿岸）

○大雨・雷注意報の夏日に、綿花畑で手作業による除草



[校舎3階まで浸水した荒浜小学校を視察：屋上から被災地を眺め、被災者から当時の様子を聞く]



[綿栽培と農作業の説明を聞く] [広大な綿栽培畑に生徒たちが散らばり、除草作業を行った]

10月18日 ユネスコスクール東北大会で活動報告（主催：文科省等）

○本大会は主に東北地区の小中高の教員や大学教官などが、持続発展教育について学ぶ研修会である。

○1年生約100人が、体験活動の映像をバックに1年生全員が群読（津波被災農家に弟子入り体験の報告）と合唱を披露



○2年生代表の2つの班が、防災教育の実践発表を行った。



11月17日 津波被災農家に弟子入り体験②（仙台市東部沿岸）

午前：生徒と保護者が手作業で綿花の収穫

午後：仮設住宅住民等（約200名）も参加して収穫祭



○生徒が仮設住民や被災者等に合唱を披露



2 予想される事業実施効果

(1) 「中学生が主導する地域防災訓練」

本訓練では、防災教育の実践を通じて、地域貢献活動による奉仕的精神を培い、防災・減災の意識と行動力を高め、防災対応能力を育むことが出来る。そして、中学生が主導して行う訓練に、地域を巻き込む防災教育は、災害時の自助・共助の方策を形作り、地域防災力の向上に資するものとなる。

中学生が主導する訓練を継続することで、将来的には地域防災を担う要となる人材が生まれ、生徒・保護者・住民など世代を超えた防災の協働体制が構築され、地域の活性化と安全・安心な地域づくりに波及する可能性がある。そして、本実践の永続的な継続は、防災教育の実践を通じて住民間の絆を強め、持続可能な地域づくりにも進化・発展する効果が生じるも予想される。

(2) 「津波被災農家に弟子入り体験」

津波被災農家が塩害のために稲作が出来ない畑で綿花を栽培し、農業再生・復興に向けて尽力している姿から、何事にも諦めない力や強い精神力を、生徒が支援活動を通じて体験的に知り、自らの生き抜く力の糧として学び取ることができる。

生徒は綿花畑で真夏に除草作業と、初冬に綿花収穫作業を行い、農作業の大変さと苦勞を体験的に理解する。それと共に、助け合い支え合う心の育成と奉仕的精神を培うことが出来る。

この弟子入り体験は昨年から継続しており、生徒は自らの地域と比較して、津波被災地の復旧・復興の様子とその進捗状況を確認している。生徒はいまだに元の生活に戻れない、戻る見込みもない方々の存在を知り、自分に何が出来るのか、何をしなければならぬのかなど、様々な考えや思いを抱き、そこから自らの発想により新たな取組が生まれることも期待できる。

3 本事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

仙台市立南吉成中学校 (URL <http://www2.sendai-c.ed.jp/~chikufu/>)

平成25年度

仙台市立南吉成中学校

防災教育の実践事例

【目次】

I	はじめに	P 1
II	中学生が主導する地域防災訓練【平成25年度の実践】	P 1
1	中学生が主導する地域防災訓練の概要	P 2
2	訓練準備・実施計画	P 3
3	アンケート調査の結果・分析について	P 6
III	「津波被災農家に弟子入り体験学習」と被災支援活動	P 9
1	平成24年度の実践内容	P 9
2	平成25年度の実践内容	P 11
3	生徒アンケートの結果分析	P 13
4	「津波被災農家に弟子入り体験」に対する保護者のコメント	P 22
IV	校内・炊き出し調理コンテスト	P 29
1	実施の目的	P 29
2	実施の流れ	P 29
3	炊き出し調理の条件設定	P 30
4	審査について	P 30
5	平成24・25年度のコンテスト開催について	P 30
6	レシピ集の作成と活用	P 33
7	平成25年度アンケート調査について	P 34



RING!RING!
プロジェクト
オートレースの補助事業

この教育実践は、オートレースの補助を受けて実施しました。

4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 仙台市立南吉成中学校

(センダイシリツ ミナミヨシナリチュウガッコウ)

住所： 〒989-3204

仙台市青葉区南吉成5丁目18番地の2

代表者： 校長 高橋 教義 (タカハシ ノリヨシ)

担当部署： 防災教育 (ボウサイキョウイク)

担当者名： 防災主任 小山 紘明 (コヤマ ヒロアキ)

電話番号： 022-277-4377

FAX： 022-303-4328

E-mail： chikufu@sendai-c.ed.jp

URL： <http://www2.sendai-c.ed.jp/~chikufu/>